

『元女子高生、パパになる』の著者でトランスジェンダー活動家の杉山文野氏ご登壇

～インド太平洋地域で活躍するリーダーたちと同地域の未来を考えるウェビナーシリーズ参加登録受付中～

国際文化会館が2021年1月より3月まで実施するウェビナー「インド太平洋次世代リーダーによるウェビナーシリーズ」の第6回目となる3月5日（金）のセッションには、渋谷区の同性パートナーシップ条例制定に関わった杉山文野氏と、台湾での同性婚実現に向け中心的役割を担った活動家のジェニファー・ルー氏が登壇します。



Webinar Series: Leaders Shaping the Future of the Indo-Pacific
Session 6 アジアにおける LGBTQ と同性婚—誰もが暮らしやすい社会とは

Equal Rights and Same-sex Marriage for LGBTQ in Asia: How to Create an Inclusive and Kind Society

Fri. March 5
6-7 pm (JST)

Speakers:
Jennifer LU (Executive Director, Taiwan Equality Campaign [TEC])
Fumino SUGIYAMA (CEO, New Canvas)

Moderator:
Aiko DODEN
(Special Affairs Commentator, NHK World TV, Japan Broadcasting Corporation)

The poster features a background with a network of white lines and dots on a dark purple gradient. In the foreground, there are two portraits: a smiling man with short dark hair on the left, and a smiling woman with short dark hair and large earrings on the right. The text is overlaid on the left side of the image.

世界では現在、29 の国と地域で同性カップルに結婚の権利が付与されており、アジアにおいては台湾が2019年に初めて同性婚を合法化した国として注目されています。一方、日本では2015年の渋谷区の同性パートナーシップ条例の導入を皮切りに、性別や性的指向によって社会的マイノリティとされる個人の権利保障に向けた改革や支援が、76以上の自治体で広がっています。しかし、LGBTQ コミュニティに対する理解は依然として限られており、同コミュニティが直面する壁はその国や社会の硬直化を表しているとも言えます。

本セッションでは、LGBTQ の当事者や支援者に限らず、この社会でさまざまな生きづらさを感じている誰もが暮らしやすい社会とは何かを、同性婚や家族関係、パートナーシップなどの LGBTQ が抱える課題から考えます。

【インド太平洋次世代リーダーによるウェビナーシリーズ】

アジアにおける LGBTQ と同性婚—誰もが暮らしやすい社会とは

スピーカー： ジェニファー・ルー (Taiwan Equality Campaign 事務局長)、
杉山文野 (株式会社ニューキャンパス代表取締役)

モデレーター： 道傳愛子 (NHK 国際放送局シニア・ディレクター)

日時： 2021 年 3 月 5 日 (金) 6:00~7:00 pm

会場： オンライン

用語： 英語 / 日本語 (同時通訳つき)

参加費： 無料 ※要申込

https://www.i-house.or.jp/programs/registration_indopacific_ws20210305ad/



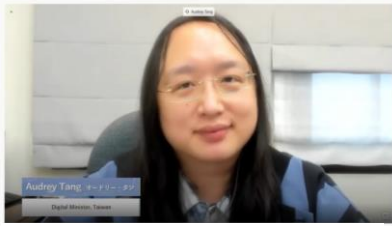
杉山文野 (株式会社ニューキャンパス代表取締役)

1981 年東京都生まれ。トランスジェンダー。フェンシング元女子日本代表。早稲田大学大学院教育学研究科修士課程修了。大学院ではセクシュアリティを中心に研究し、卒業後は 2 年間のバックパッカー生活で世界約 50 カ国 + 南極を巡り、現地でさまざまな社会問題と向き合う。帰国後、一般企業に約 3 年勤めたのち独立。飲食店の経営をしながら、講演活動などを通じて LGBTQ の啓発活動を行う。その後、日本初の渋谷区・同性パートナーシップ条例の制定 (2015 年 4 月施行) に携わる。同年、渋谷区男女平等・多様性社会推進会議委員ならびに NPO 法人東京レインボープライド共同代表理事に就任。著書に『ダブルハピネス』(講談社、2006 年)、『元女子高生、パパになる』(文藝春秋社、2020 年)。社会的マイノリティの課題に向き合うことはマジョリティの課題に向き合うことという信念を持ち、目下、東京都でのパートナーシップ制度の導入に向け活動をしている。現在は父として子育てにも奮闘中。



ジェニファー・ルー (Taiwan Equality Campaign 事務局長)

台北生まれ。台湾の LGBTQ の権利向上と政治の改革運動に尽力する活動家、フェミニスト、ソーシャル・ワーカー。国立台湾大学にて学士号 (社会福祉学)、シドニー大学にて修士号 (政策学) を取得後、LGBT 支援制度やサービス、ジェンダー平等教育の確立に 10 年間取り組んだ。2016 年 1 月の台湾国政選挙に、社会民主党からレズビアンとして初めて出馬した代表候補者のひとりでもある。その後、台湾婚姻平等連盟のチーフ・コーディネーターや、台湾同志諮詢熱線協会のシニア・フェローを務めながら、いくつもの抗議集会を開催。うちひとつは、25 万人を超える同性婚の支持者を集め、同性婚実現のための運動を後押しした。2019 年、同性婚が法制化されたのち、Taiwan Equality Campaign を共同設立。いまだ LGBTQ コミュニティに対する差別発言や、異性婚と同性婚の間に不平等が残る台湾において、全ての人にとって平等で人権を重んじる社会を目指し日夜活動をしている。



第1回：オードリー・タン氏との対話

<インド太平洋次世代リーダーによるウェビナーシリーズ>

今後のインド太平洋地域を創る新しいリーダーやアイデア、取り組みを広く紹介することを目的に、国際文化会館が2021年1月より3月まで実施しているウェビナーシリーズです。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、人間の物理的な移動が国家間・地域間で制限されることによって、反グローバル主義、ナショナリズム、人種差別などの精神的な分断を助長する傾向が懸念されています。そうした中で、人間のつながりを保った世界を再構築するために、アジア全体で協力し連帯することの重要性が一層高まっています。本シリーズは、インド太平洋地域を代表するリーダーや専門家をスピーカーに迎え、コロナによって浮き彫りになった世界の課題について、ガバナンス、教育、ダイバーシティ、地政学、建築などさまざまな切り口から考えることで、分断と孤立ではなく連帯と協力のための可能性を探ります。

本ウェビナーには、これまでにオードリー・タン氏（台湾デジタル担当政務委員）や小林りん氏（ユナイテッド・ワールド・カレッジ ISAK ジャパン共同創設者・代表理事）、キャシー松井氏（アジア女子大学支援基金財団理事会メンバー）にご登壇いただいております。

<https://www.i-house.or.jp/programs/activities/indopacific/>



第2回：コロナ禍における教育格差と新しい時代の教育実践

（左：[司会] 道傳愛子氏、中：小林りん氏、右：キャシー松井氏）

共催：アジア・ソサエティ・ジャパンセンター、シャハニ・アソシエイツ、三菱UFJリサーチ&コンサルティング

助成：国際交流基金アジアセンター、MRAハウス、Tanaka UK Japan Educational Foundation

<公益財団法人 国際文化会館>

<https://www.i-house.or.jp/index.html>



公益財団法人 国際文化会館
International House of Japan

日本と世界の人々との文化交流と知的協力を通じて国際相互理解の増進をはかることを目的に、1952年にロックフェラー財団をはじめとする内外の諸団体や個人からの支援により設立された非営利の民間団体です。事業活動は主として、文化、学術、教育などの分野において、独自にあるいは内外のさまざまな機関と協力して、各種の国際交流事業を実施するプログラム部門と、その事業を支える国際交流の場としての施設の維持運営にあたる業務部門とから成っています。

本件に関するお問合せ先

国際文化会館 企画部 池田 純子 03-3470-3211 program@i-house.or.jp